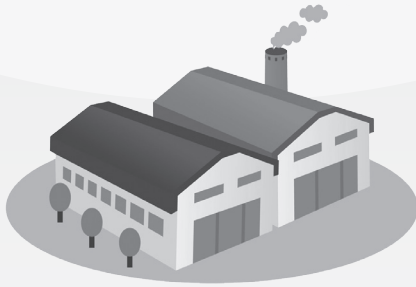


第 I 章

日本の食品製造業の 問題点



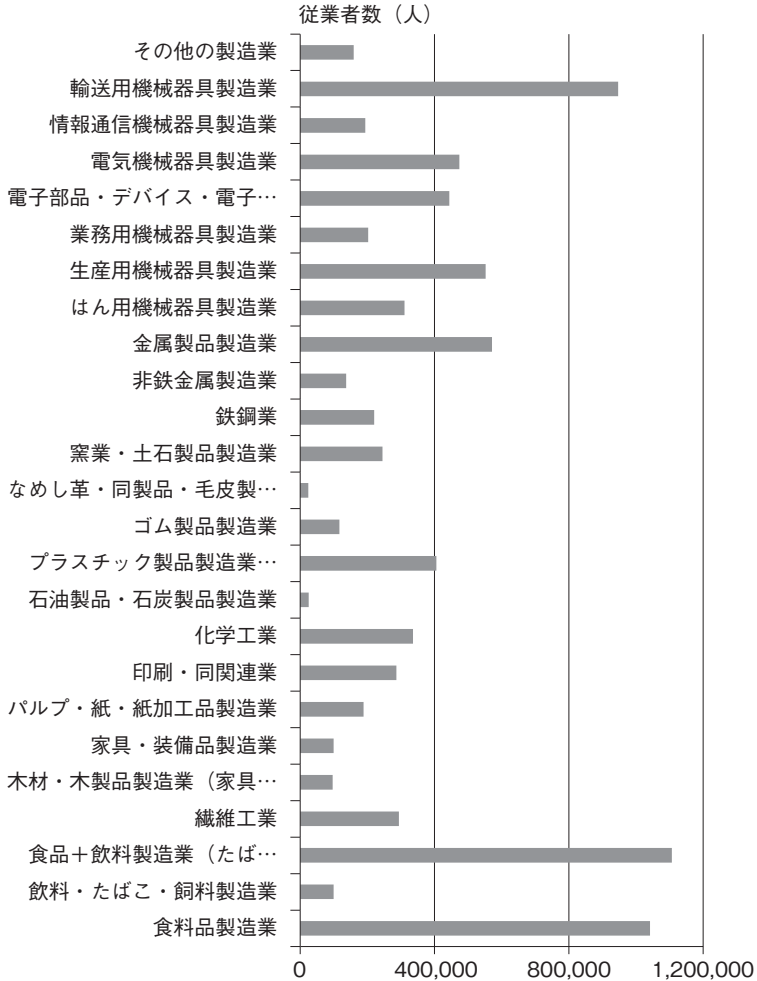
1 巨大製造業でありながら存在感の薄い食品製造業

食品製造業の現状についてはこれまでもいろいろ述べてきたが、低迷する現在の日本の食品製造業自体にこのような状態を引き起こす原因はないのだろうか。著者が食品製造業になぜ注目するかと言えば、食品製造業は製造業全体の従事者742万人のうち、製造業中分類25業種の中で日本一の従事者数を要する巨大な製造業だからである。それに飲料・たばこ・飼料製造業のうちの一般的に食品製造業と理解されている飲料製造業を加えると、食品製造業関連の従事者は図表I-1のように110万人にも及ぶ極めて大きな規模の製造業なのである。この他にも化学工業の中には通常食品工場と捉えられている可溶性デンプンやゼラチン・香料などの製造業もあるから、食品製造業と一般に認識されている従事者規模は統計上の食品製造業の従事者規模110万人よりもさらに大きく、まさに従事者規模において日本一の巨大製造業なのだ。よって日本人は食品製造業に対してもっと注目にすべきであると考えている。

このように食品製造業は巨大製造業でありながら、自動車産業などと比べ製造業としての存在感が薄いのは残念ながら事実であろう。最近流行の「モノづくり」うんぬんと言う場合にも、食品製造業は蚊帳の外に置かれているようにも感じられる。実際モノづくりの会合に参加しても、食品製造業関連の方にお会いすることは極めて少ないが現実である。食品製造業は巨大な製造業で、もちろん工業統計の対象ではあるが、製造業所管省である経済産業省に食品製造業を直接所轄する部局のない曖昧な立場であるとも言える。産業政策においてはどちらかと言えば食品製造業は中小企業政策と捉えられているようにも感じられる。

食品製造業の産業としての存在感が薄いのは、従事者数に比較して製品出荷額の比率が低いことが原因なのであろうか。それとも人々にとっ

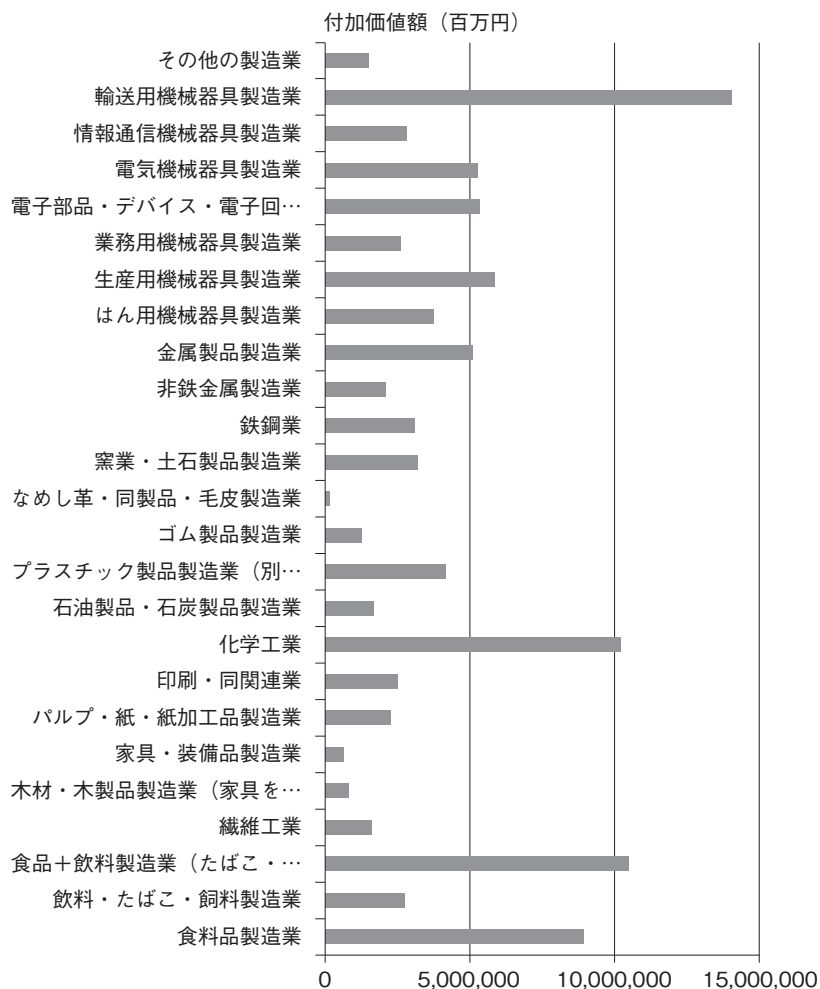
での存在感は従事者数より製品出荷額や付加価値金額の多少で判断されるのであろうか。製品出荷額では自動車に代表される輸送用機械器具製造業がダントツの 1 位である。続いて第 2 位は化学工業、そして第 3 位



出典：工業統計平成 23 年版より著者作成

図表 I-1 製造業中分類別従業員数

が食品製造業である。付加価値金額でも図表 I-2 で示されるように、輸送用機械器具、化学工業、食品製造業と同じ順番になっている。このように見ると食品製造業はその出荷金額および付加価値金額において



出典：工業統計平成23年版より著者作成

図表 I-2 製造業中分類別付加価値額 (百万円)

も、多くの方々の認識よりも実は相当大きな製造業なのである。

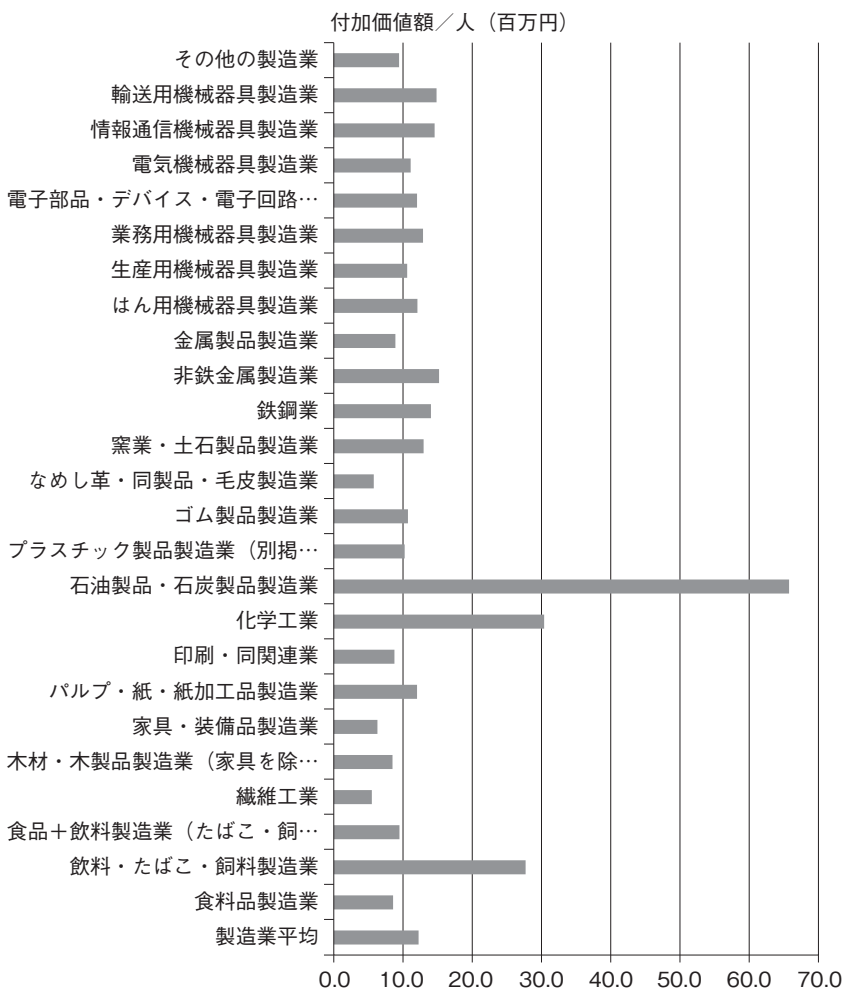
もう一つは貿易立国である（あった）日本においては海外収支額が重要視されるために、輸出額に占める食料品の割合が極めて低いことが食品製造業に対する人々の関心が薄い原因なのかもしれない。2010年の輸出額の比率で見ると、大きいものから順に電気機械18.9%、自動車18.8%、一般機械17.9%、鉄鋼5.5%、精密機械5.4%と続き、工業製品が輸出全体に対して88.4%を占め、食料品はわずかに0.5%である。このように食品製造業の輸出に対する貢献が少ないことが、食品製造業の存在感を減じさせているのかもしれない。

また食品製造業自体数百年の歴史があり伝統的な食品が多く、相対的に新規性が乏しいために他の製造業と比較してエポックや話題性が少なく、自動車や電機に比べニュース等マスコミに取り上げられることも少ないと感じる。あるいは消費者は食品安全に関する関心のみが高く、産業としての食品製造業よりも食品安全の方に興味が集中しているようにも感じる。実際、都道府県レベルで食品衛生に関する担当部門はいずれの都道府県にもあるが、主要な製造業であるにも関わらず食品製造業の担当部局を持っている都道府県は極めて少ないのが現状である。

例えばいわゆる工業を対象にする工業課のような部局はほとんどの都道府県にあるが、その部局では食品製造業は多くは対象外である。受付で食品製造業振興の担当部局を紹介して欲しいと頼んでも、大抵は食品衛生の担当部局を紹介される。これらの現実には食品製造業の生産性を追求する製造業としての人々の認識や関心が低いことから来るのであろう。このような結果からして食品製造業は製造業としての、産業振興政策からやや外れた産業になっているようにも感じる。

食品製造業の付加価値金額は図表I-2に示されるように、製品出荷額に応じて相当の金額になっているが、他の製造業に比べて一定の付加価値を生み出す為により多くの労働力を費やしているため、一人当たりの付加価値金額は図表I-3のように主要製造業中で最も低い金額に

なっている。逆の見方をすれば必要な生産量（製品出荷額）や利益につながる付加価値額を生み出すために、食品製造業は必要以上に労働力を浪費し過ぎているとも言えるのである。



出典：工業統計平成23年版より著者作成

図表 I-3 製造業中分類別付加価値額／人